

事業概要

町田市では、統計・地理空間データ等のベーシックデータがバラバラに存在しており、市民や職員が情報を探しにくく、またデータの分析には専門知識が必要で、手間がかかることがデータ利活用の課題であった。

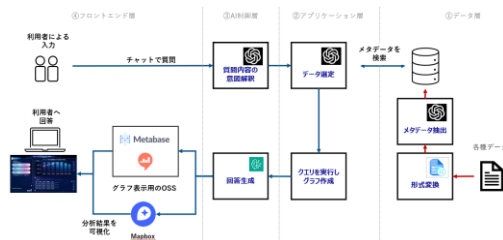
本事業は、市の主要情報をわかりやすく公開し、生成AIを活用することで、簡単に検索や分析ができる、新たなデータ利活用のプラットフォーム（オープンデータファクトリーまちだ）を構築することで、誰もが根拠データに基づき理解・判断できる環境を整備するものである。

取組内容

本事業では、以下の①～③を一体的に実施した。

① 官民データの収集・集約基盤整備

統計・地理空間・業務データ等の官民データを横断的に収集し、安全かつ再利用可能な形で集約・管理する基盤を整備した。



② 生成AIによる検索・分析・可視化機能実装

自然言語入力を起点に、生成AIが意図解釈、データ選定、クエリ生成を行い、集計・分析結果をグラフや地図、説明文として提示する機能を実装した。

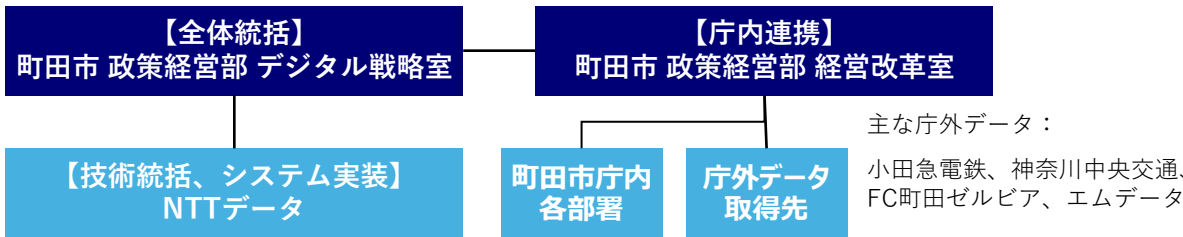


③ 庁内外活用を想定したUI/UX

地図とグラフを統合したUIを整備し、広く市民の方にご利用いただく前提で、操作性と分かりやすさを向上させた。

実施体制

町田市を推進主体とし、NTTデータが技術統括およびシステム実装を担当。庁内各所管課と外部事業者が連携しながら、生成AI活用と官民データ統合を一体的に進める実施体制を構築。



今後のスケジュール

今後も段階的に機能強化・データ拡充を進める

	R7	R8	R9以降
システム機能	2026/2 サービス開始	外部公開・改善サイクル定着	利用者の目的に合わせて、支援するAIコンシェルジュ実装
データ拡充	初期データ：68,355件	公開データ拡充・更新運用定着	異分野・広域データ連携拡張

横展開の可能性

本事業で構築した「オープンデータファクトリーまちだ (ODFM)」は、OSSを活用した低コストな設計と、標準的なデータ接続、運用観点の整理を前提に、導入・拡張できるよう設計しており、他自治体等への横展開や広域での共同利用を想定した構成である。

・オープンデータとの親和性

本事業は、多くの自治体がすでに取り組んでいるオープンデータ公開の延長線上にある。既存のオープンデータをそのまま活用できるため、新たなデータ整備を一から行う必要がなく、導入のハードルが低い。

・生成AIトレンドへの対応

生成AIの急速な普及により、自然言語でデータを検索・分析でき、非専門人材でも一定水準の結果が得られる環境への期待は高まっている。本事業はこのトレンドに即した取組であり、生成AI制御基盤 (Dify等) を活用することで、意図解釈・プロンプト管理・モデル切替等を共通化でき、今後ますます重要性が増すデータ利活用の基盤として、需要が高い取組であると考えている。

・官民双方への横展開可能性

技術面では、OSSを中心に構成しているため、特定ベンダーへの依存がなく、複数自治体での共同利用や機能の共同開発がしやすい。加えて、行政に限らず、地域の民間事業者やNPO等がオープンデータを活用したサービスを開発する際の基盤としても利用可能であり、官民双方への横展開が期待できる設計となっている。